



Essay
エッセイ

今日も、小樽の風景のどこかに

工藤 夏紀(くどう・なつき)

小樽の魅力を知ってもらいたくて

みなさんは人力車に乗った経験、ありますか？観光地では見かけることもあると思いますが、実際に乗ってみると目線がずいぶん高くて、歩いて回るよりもずっと眺めがいいんです。

小樽の人力車「えびす屋」で俵夫の仕事についてのは18歳の時。生まれも育ちも小樽市銭函ですが、高校は札幌でしたので、大好きな小樽で仕事をしたいという思いはずっとありました。この街の歴史と、それを今に伝える街並みの魅力を、もっと多くの人に知ってもらいたかったんです。2年ほどやらせていただいて、そのあとはいろいろな職業を経験しました。今は本業として



石狩でフォークリフトの運転手をしながら、1年前から再び俵夫も掛持ちしています。以前は女性の俵夫が他にもいらっしゃいましたが、今は私だけです。

店ではなく風景を見てほしい

人力車の重量はおよそ80kg、耐荷重は約250kgです。女性ですし、大変ではないの？大丈夫なの？とよく聞かれますが、車輪が大きいのでコツさえ掴めばそんなに大変ではありません。車輪が大きくなるほど、扱いやすい気がします。

小樽の顔とも言える運河を中心に、銀行建築が建ち並ぶ旧ウォール街や手宮線跡など往時の小樽の繁栄を偲ばせる場所を、解説しながら走っています。もちろん、お客様のご希望次第でルートはいろいろアレンジしています。ご利用は道外や海外からの観光客の方が多いですが、札幌の方のご利用も意外とあるんですよ。カップルや家族連れなどに人気です。

個人的に一番好きな場所は、旧北海製罐倉庫(株)(小樽市指定歴史的建造物 第76号)に面した北運河エリア。遊歩道の両側にガス灯があり、電柱もないので、すごくノスタルジックなんです。お店も全然ないので、景色に目が行きますよね。逆に旧ウォール街は建物がそれぞれ重厚で歴史を感じますが、多くは飲食店や



ホテルになっており、観光客の方はついつい建物の中に目が行ってしまうようで、肝心の景色を見てもらえていない気がします。

それにしても、札幌などに比べて小樽に明治大正期の建物がこれほど数多く残っているのは、街の歴史を未来に残していこうとする市民の気質があってこそなんだと思います。歴史ある建物がたくさんあるということが、小樽市民の誇りなんです。それが本当にありがたいし、そんな風景を多くの方に知ってほしいからこそ、私はこの仕事をやらせていただいているんだと思います。私の解説を聞いて驚いてくださったり、小樽の歴史を初めて知ったという感想をいただいた時が、やりがいを感じる瞬間ですね。

冬ならではの苦労も

私たちの人力車は冬も営業しています。吹雪ですと、さすがにお客様ゼロの日もあります。

夏場は暑さとの闘いがありますが、冬場は雪道との闘いです。足で踏ん張ると滑りますから、腕や背中を使って操縦する感じ。夏に比べると力が要ります。でも、一生懸命走っているうちに身体がちょうど温まるので、真夏の暑さに比べれば寒さは平気です。お客様はというと、座席に雪が吹き込まないように防風カバーがかかっていますし、お尻にカイロも入れて、毛布も2枚膝にかけてもらうので、乗車中は温かいんです。むしろ人力車を降りた後で「寒っ」と驚かれたり。

冬場は除雪後の雪山で車線が狭くなり、通常2車線ある通りが1.5車線になっているのが当たり前。除雪が追いつかない時は車は低速走行していますから、排気で路面の雪が溶けてアスファルトが露出したような穴が、あちこちにあるんです。避けられないぐらい穴だらけで、大変でした。人力車の車両もそれで痛んでしまいます。京都の本社から来ていた社員の方も、小樽の冬道のコンディションの悪さに驚いていました。京都も雪が降ることはありますが、北海道のように積もらないので、想像していた以上だったんでしょうね。

でも雪国だからこそ、路肩の幅が広いので、冬以外の季節はすごく走りやすいんです。

道路はみんなのものだから

10代の頃に2年間この仕事をして、5年経って再び戻ってきた私ですが、この短い期間だけでも、小樽の交通マナーが悪くなってきているのではと感じるようになりました。地元の方々は駐停車をする際も出来るだけ歩道側に寄せてくれたり、長時間の停車や交差点付近での停車をしないように気を付けて下さる方が多いと感じているのですが、レンタカーや外国の方が運転している車も多いためか、最近はぎょっとするような場所に路上駐車されていることもあります。減速してウinkerを出している車を抜こうとしたら、急にこちらへ出てきたりと、ヒヤッとすることもあります。このままどんどんマナーが悪くなって、ルールを守れていない状態になると、私たちも営業ができなくなるのでは…と心配になります。観光客も市民も、みんなで使う道路ですから、ルールを守って気持ちよく使っていきたいですね。



工藤 夏紀（くどう・なつき）

■ profile

2000年小樽市銭函生まれ。石狩市内の物流倉庫でフォークリフトの運転手をしながら、小樽で人力車の俵夫も兼業。人力車観光の詳細は「えびす屋」小樽店のウェブサイト <https://www.ebisuya.com/branch/otaru> を参照

